

べし。事^{こと}かけて候^{まう}わば、かたびらていのものなり。大進^{だいしん}の阿闍梨^{あじやり}等にいゐあわせて、ひたゝれ、よきものにはかたびら・ぬのこそで、三人^{さんにん}して計^{はかり}あわせ給^え。

小乗大乘分別鈔

文永十年（一二七三）。五十二歳。於佐渡一谷。二十三紙断
小湊誕生寺外二十ヶ所現存。（定七六九頁）

夫^{それ}小大定^めなし。一寸の物を一尺の物に対しては小と云^い、五尺の男に対しては、六尺七尺の男を大の男と云^う。外道の法に対しては一切の大小の仏教を皆大乘と云^う。「大法東漸」「通指^{つうし}仏教^{ぶつぎょう}以為^い大法^{だいはう}」等と積する是也。仏教に入^{いり}ても鹿苑^{ろくおん}十二年の說^{せつ}、四阿含經^{あごんぎょう}等^らの一切の小乗經をば諸大乘經^{しよだいじょう}に対して小乗經^{せうじょう}と名^{なづ}たり。又諸大乘經には大乘の中にとりて劣る教を小乗と云^う。華嚴の大乘經に「其^こ余^よ樂^{よろこ}小法^{しょうぼう}」と申文^{すもん}あり。天台大師はこの小法といふは常の小乗經にはあらず、十地の大法に対して十住^{じゆう}・十行^{じやう}・十回向^{じゆうかう}の大法を下^{くだ}して小法^{しょうぼう}と名^{なづ}く積^つ給^{たま}へり。又法華經第一卷^{だう}方便品に「若^し以小^い乗^{じやう}化^け、乃至^{乃至}於^お一人^{いちにん}」と申文^{すもん}あり。天台・妙樂は阿含經^{あごんぎょう}を小乗^{せうじやう}というのみにあらず、花嚴經^{けごんぎょう}の別教^{べつぎやう}、方等^{ほうとう}・般若經^{はんにやぎょう}の通^{つう}・別^{べつ}の大乘をも小乗と定^{さだ}む。又玄義^{げんぎ}の第一^{だいいち}に「会^え小^{しょう}歸^き大^{だい}、是^ぜ漸頓^{ぜんとん}混^ま合^{ごう}」と申^ま積^つをば、智証大師^{ちしじやうだいし}は始め花嚴經^{けごんぎょう}より終り般若經^{はんにやぎょう}にいたるまでの四教^{しぎやう}・八教^{はつぎやう}權^{ごん}實^{じつ}諸大乘經^{しよだいじやう}を漸頓^{ぜんとん}と積^つす。混^ま合^{ごう}と云^い者^{しや}、八教^{はつぎやう}を會^えして一大^い円^{えん}教^{ぎやう}に合^あとこそことばられて候^{まう}へ。又法華經^{だうぼうぎょう}の寿量品^{じゆりやうひん}に「樂^{がく}於^お小法^{しょうぼう}、德薄^{とくはく}垢^く重^{じゆう}者^{しや}」と申文^{すもん}あり。天台大師^{たいたいだいし}は此^こ經^{ぎやう}文^{ぶん}に